

# 内装制限緩和 告示内容に基づく離隔距離の範囲（ドブレ640WD No. 1/3）

国土交通省告示第225号 第一項 二号 イ、ロ（ストーブの発熱量18kW以下のストーブを設置した室に限る。）

◇告示第225号第一項第二号イの場合

※範囲計算条件

◇ストーブ本体機種：ドブレ640WD

◇壁のシールド無し

◇側面扉を開口部とみなさない。

◇水平投影面積は脚を含まない。

◇計算方法・計算結果

□ストーブ等可燃物燃焼水平距離

ストーブの鉛直投影面積（正面・背面）： $A_v=3630\text{cm}^2$ （ $66\text{cm}\times 55\text{cm}$ ）

ストーブの鉛直投影面積（左右側面）： $A_v=3272.5\text{cm}^2$ （ $59.5\text{cm}\times 55\text{cm}$ ）

1. 正面（開口部がある面の離隔距離（ガラス等扉付））

$L_{sop}=2.4\times\sqrt{3630}=144.6\text{cm}$

2. 右側面（開口部がない面の離隔距離）

（※薪投入用サイドドア：常時使用しない扉のため開口部とみなさない）

$L_{ssl}=1.59\times\sqrt{3272.5}=91.0\text{cm}$

3. 左側面（開口部がない面の離隔距離）

$L_{ssl}=1.59\times\sqrt{3272.5}=91.0\text{cm}$

4. 背面（開口部がない面の離隔距離）

$L_{ssl}=1.59\times\sqrt{3630}=95.8\text{cm}$

□ストーブ等可燃物燃焼垂直距離

ストーブの水平投影面積： $A_h=3927\text{cm}^2$ （ $66\text{cm}\times 59.5\text{cm}$ ）

5. ストーブ上面の離隔距離

$H_s=0.0106\times\left(1+\frac{10000}{(3927+800)}\right)\times 3927=129.7\text{cm}$

□ストーブ等可燃物燃焼基準距離（作図により軌跡を示す）

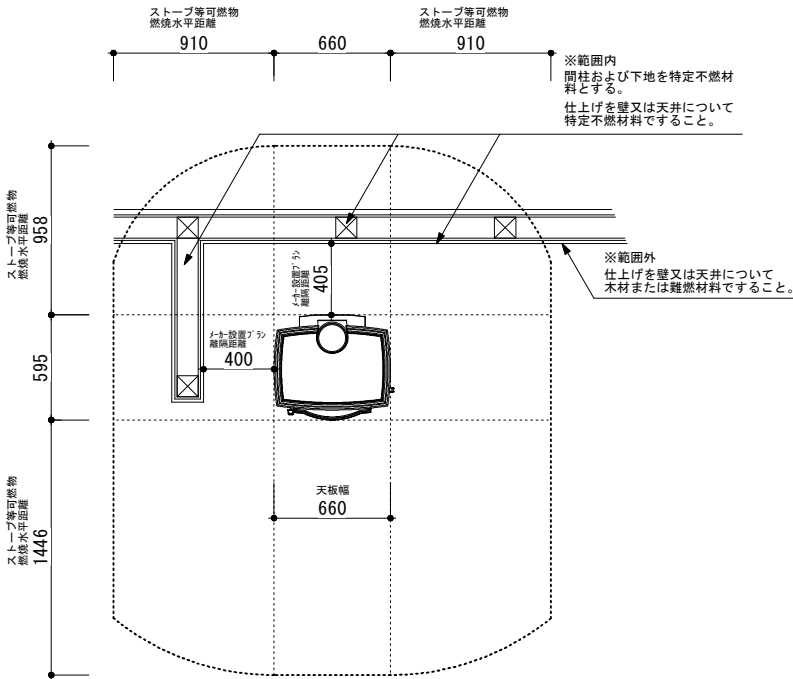
$D_s=\left(\frac{H_s-h}{H_s}\right)\times L_s$

（※ $D_s$ は各高さの計算結果の軌跡によって表現される。）

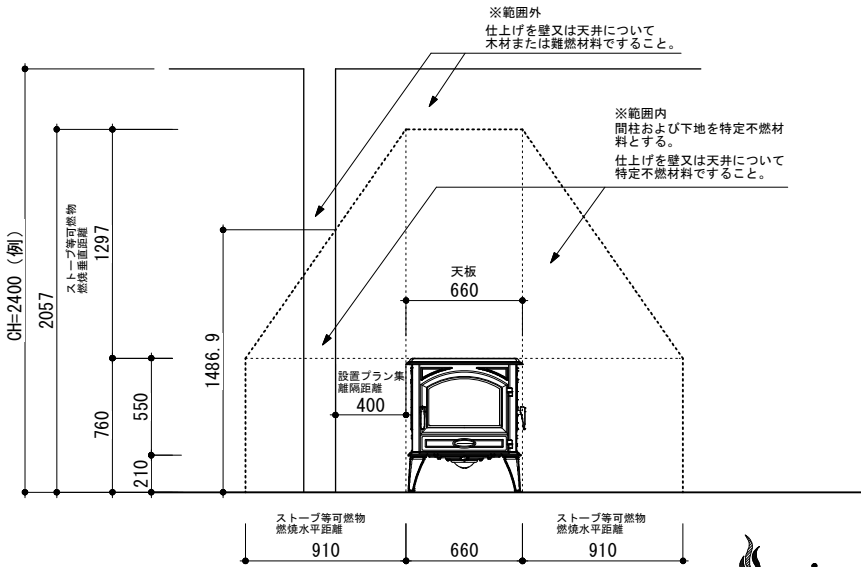
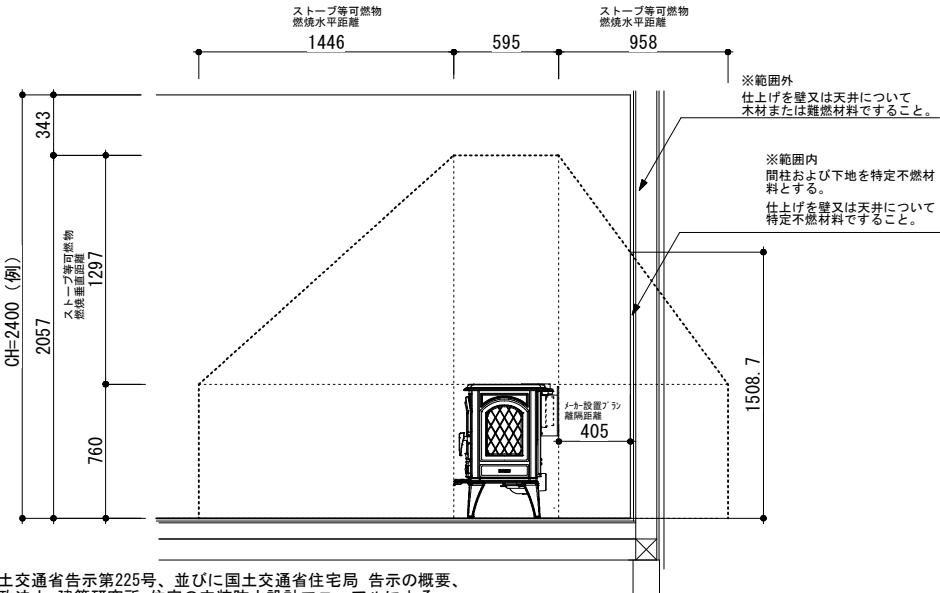
◇特定不燃材料

不燃材料のうち、平成12年建設省告示第1400号第1号から第8号まで、第10号、第12号から第17号までに該当する材料。

- ・コンクリート
- ・れんが
- ・瓦
- ・陶磁器タイル
- ・繊維強化セメント板
- ・ガラス繊維混入セメント板（厚さ3mm以上）
- ・繊維混入ケイ酸カルシウム板（厚さ5mm以上）
- ・鉄鋼
- ・金属板
- ・モルタル
- ・しっくい
- ・石
- ・せっこうボード  
（厚さ12mm以上で、ボード用原紙の厚さが0.6mm以下のもの）
- ・ロックウール
- ・グラスウール板



※ストーブ壁仕上の仕様はメトス設置プランを参考のこと。



※本資料は、国土交通省告示第225号、並びに国土交通省住宅局 告示の概要、および独立行政法人 建築研究所 住宅の内装防火設計マニュアルによる。



# 内装制限緩和 告示内容に基づく離隔距離の範囲（ドブレ640WD No. 3/3）

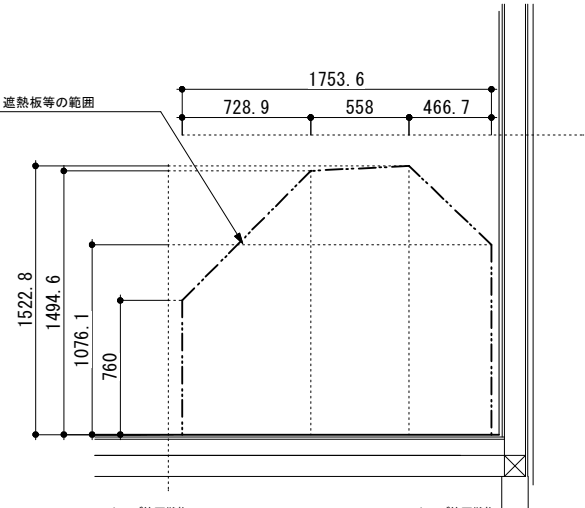
国土交通省告示第225号 第一項 二号 イ、ロ（ストーブの発熱量18kW以下のストーブを設置した室に限る。）

○告示第225号第一項第二号ロの場合

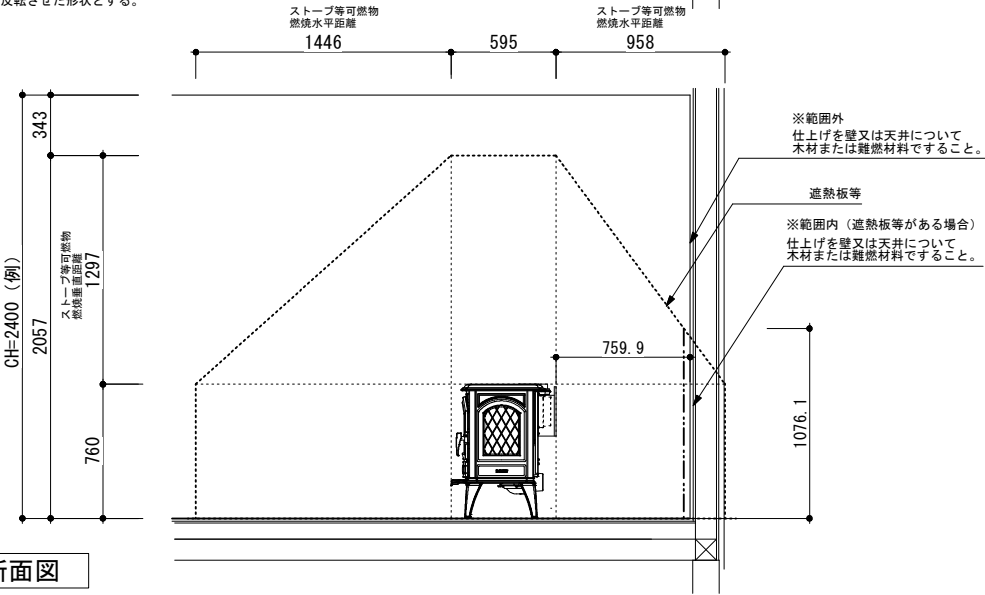
## ※遮熱板等範囲計算の一例（コーナー設置の場合）

※範囲計算条件

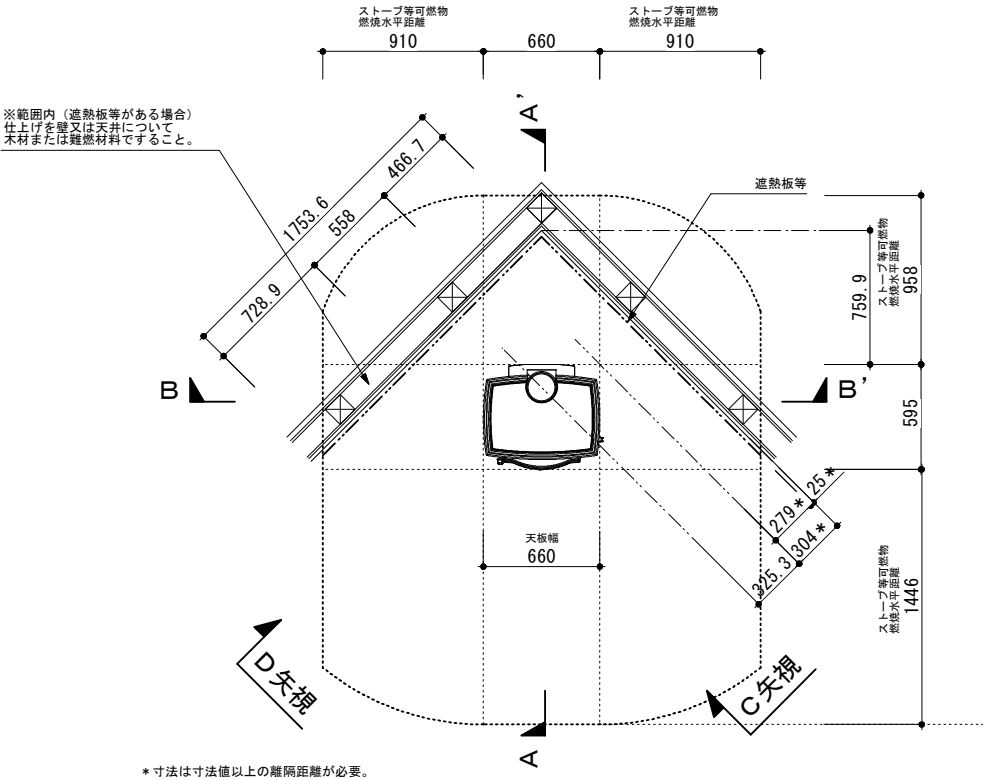
- ◇ストーブ本体機種：ドブレ640WD
- ◇壁のシールド：遮熱板等あり
- ◇側面扉を開口部とみなさない。
- ◇水平投影面積は脚を含まない。



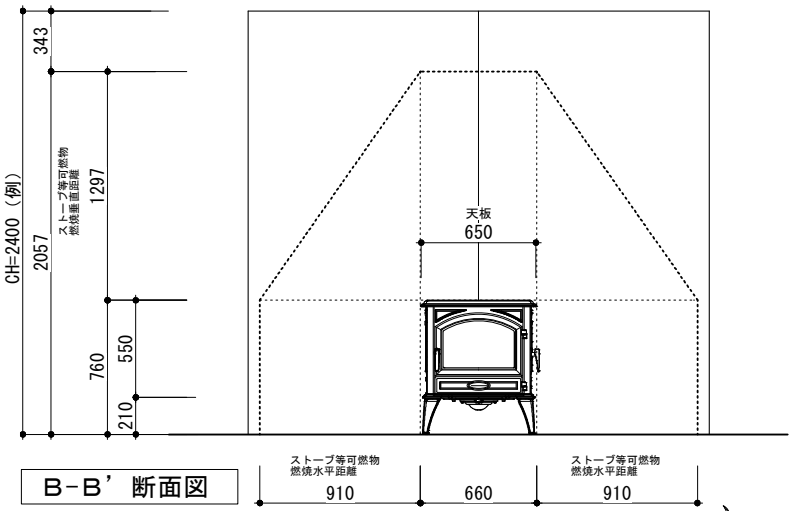
C矢視展開図



A-A' 断面図



\*寸法は寸法値以上の離隔距離が必要。



B-B' 断面図

※本資料は、国土交通省告示第225号、並びに国土交通省住宅局 告示の概要、および独立行政法人 建築研究所 住宅の内装防火設計マニュアルによる。